

石川県七尾美術館だより

令和元年10月1日発行
編集・発行 (公財)七尾美術財団

第99号(秋号)



ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM



2019イタリア・ボローニャ
国際絵本原画展

「石のこえ」
イケガミ ヨリユキ (日本)

展覧会紹介

令和元年10月1日(火)～12月28日(土)

休館日については裏表紙をご覧ください

「2019イタリア・ポロニーヤ 国際絵本原画展」

11月1日(金)～12月8日(日)

〔会期中無休〕

◆第1・第2・第3展示室

毎年春にイタリアのポロニーヤ市で開催される「ポロニーヤ・チルドレンズ・ブックフェア」(以下「ブックフェア」)。



「元気になったココロギ」(トーン・テレヘン作)
アナ・サブアタラウ(スロヴェニア)

1964年にスタートし、今年は80カ国1442社もの出版社が出版した世界最大級の児童書専門見本市です。ブックフェアは版權の売買を行う商取引の場であるだけでなく、世界中から児童書の編集者や研究者、イラストレーターたちが集い、絵本の新たな可能性を探る場でもあります。このブックフェアが主催する児童書のためのイラストレーションコンクールが「ポロニーヤ国際絵本原画展」です。コンクールは5枚1組の原画を審査するもので、出版歴の有無に関わらず応募できるため、新人作家の登竜門としても知られています。

1月初旬のポロニーヤに国籍の異なる5人の児童書の専門家が招かれ、審査は行われました。審査会場では62カ国2901作家から応募された1万4505枚もの作品がテーブルに並べられ、審査員たちは3日間かけて全ての作品に目を通しました。技術力、表現力、発想力、獨創性などについて全員でディスカッションを繰り返し、27カ国、76作家(日本人10名を含む)の入選作品を選びました。作品はブックフェアで展示された後、

日本への巡回をはじめ、韓国や中国での開催も予定されています。

本展覧会では、様々な技法で表現された全ての入選作品を展示し、児童書の分野におけるイラストの多様性をご覧いただけます。当館では1998年から継続して開催しており、今年で22回目を迎える毎年恒例の展覧会です。特別展示として、昨年のポロニーヤ展入選作家から選ばれた2人の女性作家も紹介します。

「水平線」
カロリーナ・セラージュ(ポルトガル)



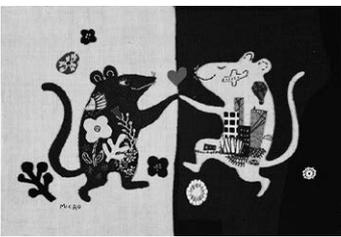
「ふたつのきもち」
井上陽介(日本)



「見たままそのまま?」
フェリドゥン・オラル(トルコ)



「すばらしいオーケストラ」
ガイア・ステラ(イタリア)



「イソップものがたり」
平佐実香(ミカオ)(日本)

「2019原画展審査員」

デイエゴ・ピアンキ

(イラストレーター、デザイナー、出版者/アルゼンチン)

ベアトリス・ヴァンサン

(アルバン・ミシエル出版社/フランス)

ハリエット・ヴァン・レーク

(イラストレーター、絵本作家/オランダ)

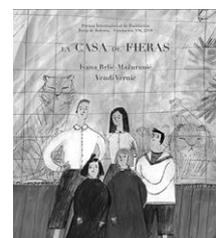
マチエイ・ピリニヤク

(ドゥヴィエ・スイヨストゥリ出版社/ポーランド)

アレックス・ドロ・サンナ(イラストレーター/イタリア)

【特別展示①】ヴェンディ・ヴェルニッチ

昨年ポロニーヤ・SM出版賞を受賞した、クロアチアのヴェンディ・ヴェルニッチの受賞記念絵本『動物園』(La casa de fieras)の原画を紹介します。



『動物園』(La casa de fieras)
(Ediciones SM, 2019)

1991年にクロアチアの首都ザグレブで生まれたヴェンディは、ザグレブ美術学院でグラフィックデザインを専攻、ズヴェトラン・ユナコビッチ教授(彼はポロニーヤ展で入選を重ね、2015年に審査員を務めた)の研究室で学びます。2017年にゴリ作「外套」のイラストでポロニーヤ展初入選、翌2018年にはドストエスキの短編「クロコディール(鱷)」で再入選し、ポロニーヤ・SM出版賞を受賞しました。処女作である『動物園』は「クロアチアのアンデルセン」と呼ばれ、ノーベル文学賞候補に2度上がった女流作家、イワナ・ブルリッチ・マジユラニッチの童話が原作。5人の兄弟姉妹の動物園ごっこから始まる物語を19枚の原画でお楽しみください。



2018
入選作品

2017
入選作品

【特別展示②】マーシャ・チトワ

ブックフェアでは年毎にテーマを設け、コンセプトを分かりやすく伝えるためのメイン・イメージを制作しています。今回、このヴィジュアル・アイデンティティの制作に起用されたのが、1998年生まれのマーシャ・チトワ（ロシア）です。マーシャはキアラブ・デザインスタジオのアーティストレクシジョンのもと、今年のブックフェアのテーマ「子どもに向けたコンテンツの舞台」を、ブックフェアを訪れた人たちが本のページのような壁の間に迷いこんでいく様子で表現しました。マーシャのイラストを用いた動画と、素材となった8点の原画を、キアラブとの共同作業の様子を交えて紹介します。

【映像コーナー】

今年1月の審査会、3月のブックフェアの様子や、審査員や入選作家、編集者へのインタビューを紹介します。絵本作家を目指す方は必見!!

【絵本コーナー】

展示作品や入選作家の既刊本やダミー本、ブックフェアでラガッツィ賞を受賞した世界の絵本、おすすめ絵本などをご覧ください。

●●●●ポロニーヤ展関連イベント●●●●

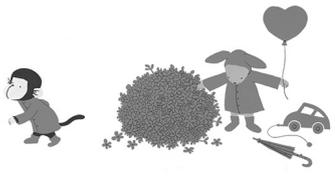
絵本アニメ上映会【入場無料】

世界の名作絵本アニメを上映します。絵本に登場するキャラクターがスクリーンを動き回ります。

開催日 会期中毎週土曜日

時間 11:00～11:40、13:00～13:40

会場 アートホール



「モモとトト」キム・ソルギ（韓国）

かんたん絵本を作ろうよ! 【要観覧券】

不要となったポスターなどの裏面を利用して冊子を作り、ストーリーを考え、自由に飾りつけてオリジナル絵本を作ります。
日時 会期中毎週土・日曜日、14:00～16:00
対象 4歳～小学生（未就学児は保護者同伴）
定員 各日10名（要申込、先着順）
持ち物 使いたい画材など
協力 絵本の会 もこもこ
会場 展示室内
申込 10/19（土）9:00より電話にて受付。

「のまりん」の紙芝居劇場【入場無料】

紙芝居の前に座ると、大人も子どももワクワクドキドキ。世界で紙芝居の魅力を伝える「のまりん」の豊かな表現をお楽しみください。
日時 11/17（日）、11:00～11:40、13:00～13:40
出演 のまりん（野間成之氏）
会場 アートホール

おはなし劇場【入場無料】

絵本を大型スクリーンに投影しての読み聞かせ、温かみのある人形劇の上演などで、物語の世界へ招待します。簡単な手作りコーナーもあります。
日時 11/24（日）、10:30～11:30、13:00～14:00
協力 NPO法人 ぽっかぽか
会場 アートホール

ナイトミュージアム【要観覧券】

絵本の読み聞かせや会話を楽しみたい方、日は時間が取れない方に最適な夜間延長です。
日時 11/30（土）、17:00～20:00
（入館は19:30まで）
※展示室が賑やかなる可能性があります。

◇観覧料

	個人	団体
一般	800円	700円
大高生	350円	300円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

★イタリア・ポロニーヤ展グッズ販売★

ミュージアムショップコーナーではポロニーヤ展関連グッズを販売します。図録をはじめ、絵本も和書・洋書と取り揃え、またオフィシャルグッズではポストカード（16種）、クリアファイル（A4・A5）、マグネット、A6ノートなどを販売。日本人入選作家のオリジナルグッズも販売します。人気商品は会期中でも売切れてしまうことがありますので是非、お早めにお立ち寄りください。（販売価格は税込価格です）



クリアファイル A4・400円、A5・300円



図録 2,500円



ポストカード 100円、マグネット 500円



A6ノート 500円

令和元年度秋季企画展

「名品がかたる」能登の美術

「絵画を中心に」

9月21日(土)〔開催中〕～10月20日(日)

◆第2展示室

「能登の美術」と聞いて、貴方は一体なにを思い浮かべますか。メジャーなところでは「輪島塗」や「珠洲焼」などが挙げられるでしょう。一方、通好みで「合鹿椀」や「正院焼」などもアリかもしれません。それともやはり、ここは王道として「長谷川等伯」でしょうか。

昨年は能登にとって「立国千三百年」という記念の年でした。奈良時代の養老2年(718)に「能登国」が成立してから、はや1300年。現在に至るまでの膨大な歳月の中、能登国内では数多くの美術工芸が興り、それぞれの時代や人びとの生活に彩りを添えています。

その過程で「名品」と呼ぶにふさわしい「とびきり」の作品も数多く生み出されました。それらはたくさんの人びとによって脈々と守りぬかれ、「令和」の今へと受け継がれています。

さて、当館が開館したのは平成7年(1995)のこと。能登地方に所在する美術館として「能登ゆかりの作品の収集・展示」を主要テーマに、これまで活動を行ってきました。



「日蓮聖人像」長谷川宗清(道浄) 個人蔵

そしておかげさまをもちまして、当館は来年でいよいよ「開館25周年」を迎えます。悠久たる能登国の歴史からすれば微々たるものですが、それでもこれまで重ねた年月により、800点以上の作品が収蔵されるに至りました。無論その中には、「能登ゆかりの作品」が多く含まれています。本展では当館所蔵品および寄託品より、「能登」をキーワードとする作品をピックアップ。絵画から写真までの多岐にわたるジャンルの中から、今回は絵画を中心に一部工芸や彫刻などを加えて、あわせて30点を紹介中です。



石川県指定文化財 「浪龍図」 輪島市・總持寺相院蔵

展示のラインナップは、中国伝来の仏画や地元の歴史に深く関連する人物たちの肖像画。または近代以降、現在までのフレッシュな日本画や洋画の面々。そして「能登ゆかりの絵画」としては Teppan の、長谷川等伯(1539～1610)および「長谷川派」絵師たちの仏画など。いずれも貴重な作品ぞろいであり、これらの逸品をおして豊饒な「能登の芸術文化」の一端を感じ取っていただければ幸いです。

「つづくまる女」高田博厚



「カブラ絵合鹿椀」(池田コレクション)



「陶淵明図」山崎雲山 個人蔵

同時開催

「茶道具とりどり」

「池田コレクションより」

◆第1展示室

日本の代表的伝統文化のひとつである「茶道」。穏やかな心で喫する「一服の茶」は、なにもものにも代えがたい深い味わいを醸し出します。

さて幾多もの道具を必要とする茶道。従って茶碗や茶杓、茶器に水指、そして掛物に至るまで、実にたくさん種類の存在しています。

本展では、七尾市出身の実業家・池田文夫氏(1907～87)蒐集の当館中核所蔵品「池田コレクション」より、多彩な各種茶道具計35点を展示しています。



「織部耳付香炉」(池田コレクション)



「老松割蓋茶器 寛々斎好」(池田コレクション)

◇共通観覧料

	一般	個人	団体
大高生	500円	400円	
	350円	300円	

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

「人間国宝を中心に・陶磁器の美と技」

12月14日(土)～2月11日(火・祝)

◆第2展示室

来年いよいよ、東京国立近代美術館工芸館が石川県金沢市に移転します。場所は石川県立美術館と石川県立歴史博物館との中間あたりで、現在着々と準備が進められています。それに伴い県内では、機運を高めるべく石川県立美術館を筆頭に、数年前より美術館施設などで連携事業として展覧会やイベントが開催されています。

本展はその事業の一環で、東京国立近代美術館工芸館所蔵作品から、重要無形文化財保持者（人間国宝）の陶磁器作品を中心に45点を展示します。今回の展示は人間国宝の作品が中心であり、能登でこれだけ陶磁器の名品が揃って展示されるのは初めてです。是非この機会に、日本が誇る陶磁器の美と技をご覧ください。

また、会期中は本展を記念しての貴重な関連イベントもありますので、あわせてご参加ください。

《出品作家》

荒川豊蔵・石黒宗磨・伊勢崎淳・十三代今泉今右衛門・加藤孝造・加藤卓男・加藤土師萌・北大路魯山人・近藤悠三・十二代酒井田柿右衛門・清水卯一・鈴木藏・田村耕一・塚本快示・三代徳田八十吉・富本憲吉・濱田庄司・松井康成・三浦小平二・三輪休和・三輪壽雪・山本陶秀・吉田美統



「染付岩文壺」
近藤悠三 1960年



「色絵雲錦鉢」
荒川豊蔵 1971年

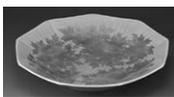
本展関連イベント

◆オープニングセレモニー&ギャラリートーク
日時：令和元年12月13日(金)

セレモニーは午後3時
ギャラリートークは午後3時35分～約40分
講師：唐澤昌宏氏（東京国立近代美術館工芸課長）
※セレモニー（内覧会、ギャラリートーク含む）は、招待者（当館友の会員含む）のみです。

◆スペシャルアーティストトーク
日時：令和2年1月19日(日)

午後2時～約1時間
講師：吉田美統氏
（重要無形文化財「釉裏金彩」保持者）
…十四代今泉今右衛門氏
（重要無形文化財「色絵磁器」保持者）
司会：唐澤昌宏氏（東京国立近代美術館工芸課長）
※高校生以上の方は観覧券が必要です。



「釉裏金彩牡丹文飾皿」
吉田美統 2017年

同時開催

「冬の優品おもてなし」
～等伯、浮世絵、現代絵画まで～

◆第1展示室

当館所蔵品と寄託作品より、長谷川等伯や池田コレクシヨンの近代日本画、石川県ゆかりの現代作家絵画など、22点を紹介します。



「維摩居士図」狩野芳崖
1886年頃（池田コレクション）

◇共通観覧料

	一般	個人	団体
大高生	3500円	5000円	4000円
中学生以下無料・団体は20名以上です。			

当館収蔵品貸出情報（10月1日現在）

作品名 書「對松軒」1面

会場 魯山人寓居跡いろは草庵

（石川県加賀市山代温泉18-15）
☎0761(77)7111

展覧会 魯山人寓居跡いろは草庵 没後60年記念展
「魯山人となるまで」篆刻看板から陶芸へ」
会期 9月26日(木)～12月17日(火)



「對松軒」北大路魯山人
（池田コレクション）

「食と美の巨人」北大路魯山人（1883～1959）。彼は若年時に山代温泉に滞在、その出会いの中で陶芸や料理に開眼しました。本展では、山代時代に制作された篆刻看板や陶芸作品などを展示。魯山人芸術の展開をたどります。

※詳細は魯山人寓居跡いろは草庵までお問い合わせください。

ティールームからのお知らせ

展覧会を楽しんだあとは、ティールームでゆっくりお過ごしください。

「茶道具とリベリ」限定メニュー 《期間9/21～10/20》

お抹茶セット（500円）

もちもちの白玉にきなこ・餡を添えました。



「ポローニャ展」限定メニュー 《期間11/1～12/8》

ピザセット（850円）

ナポリ風ピッツァクラフトに、ソーセージ、ペパロニ、ベーコン等の具材とゴーダ、モッツアレラチーズをトッピングしたミックスピザです。



☆ポローニャ展限定メニューをご注文のお客様には、本展出品作品をモチーフにしたペーパーコースターが付いてきます♪

★友の会会員割引★

会計時にレジにて会員証をご提示いただくと10%割引になります。

貸館催し物案内

市民ギャラリー

MOA美術館七尾・中能登児童作品展

無料 入場

10月10日(木)～13日(日)

初日は午後1時から

最終日は午後4時30分まで

生命を尊ぶ心、心ゆたかな人間形成を願いに、未来にはばたく子供たちに、夢と希望を与える入賞作品を展示させていただきますので、ぜひご鑑賞ください。10月13日午前10時より美術館アートホールにて入賞者の表彰式を行います。

主催 (公財)岡田茂吉美術文化財団(MOA美術館)、MOA美術館七尾・中能登児童作品展実行委員会

連絡先 同実行委員会

☎0767(53)3914

第14回彩の会・写団のと展

無料 入場

10月18日(金)～20日(日)

最終日は午後4時30分まで

七尾市を中心に活動する洋画グループ「彩の会」と写真グループ「写団のと」の合同作品展で会員20名が近作およそ80点を展示発表いたします。芸術の秋、ぜひご来場ご高覧ください。

主催 七尾市文化協会

連絡先 彩の会 加地 求

☎0767(52)1613

第65回七尾市美術展

無料 入場

10月25日(金)～28日(月)

最終日は午後3時まで

能登最大規模の美術の公募展です。青少年の美術育成と向上を願っております。10月27日(日)

午後1時より、美術館アートホールにて入賞者の表彰式を行います。力作ぞろいです。是非、足をお運びください。

主催 七尾美術作家協会

連絡先 同協会 副会長 橋本義則

☎0767(53)3013

第76回北國写真展 七尾展

無料 入場

12月19日(木)～22日(日)

最終日は午後5時まで

アツ、ハツ、と息を呑む、穏やかな気持ちに浸れるような、もう一度見たいと思わせる、そんな作品が並ぶと思う。その作品の裏にどんなドラマが秘んでいるのか、そこが知りたくなる。待ちましよう。

主催 北國写真連盟、北國新聞社、富山新聞社、福井新聞社

連絡先 宮崎 功 ☎090-4320-2178

アートホール

金沢紫金草合唱団19周年記念コンサート

無料 入場

10月5日(土) 開演 午後2時

花・歌・平和・人間が大好きな私たち。今年はこの「でも・いのち・みらい」をテーマに友禅の作品を作っておられる七尾市在住の志田弘子さんとともに、未来への願い、想いをお届けします。

入場料 500円

主催 金沢紫金草合唱団

連絡先 新井田由美子

☎090-1312-3513

第6回七尾またら伝承会発表会

無料 入場

10月20日(日) 開演 午後1時

七尾またらの普及と継承、そして会員の技量の向上を目指して第6回目の発表会を開催します。

特別出演として園児、学童、歌謡舞踊の皆さんにもご協力を得て、舞台に華を添えていただきます。

主催 七尾またら伝承会

連絡先 会長 斉藤秀雄

☎0767(53)3393

ロータリー市民フォーラム

「人生100年時代の生き方」

無料 入場

10月26日(土) 開演 午後2時

元気で長生きは大昔から人類の夢でした。人生百年時代を楽しく生き、最期の瞬間までこの街で暮らすために、大切なことを一緒に考えませんか？

主催 七尾ロータリークラブ

連絡先 同右 ☎0767(53)5590

ドルチェ ピアノコンサート

無料 入場

11月10日(日) 開演 午後1時30分

毎年開いているこのピアノコンサートも、今年で21回目となります。生徒達と一緒に、この一年で育んだものを、楽しく表現できる発表の場になりたいと思います。

主催 ピアノグループ ドルチェ

連絡先 井藤真理 ☎0767(58)1253

なな華の集い

無料 入場

12月1日(日) 開演 午後1時30分

オープニングは、生花のパフォーマンス。大正琴と楽器とのコラボ、踊り、唄等。大正琴をおして、観客、出演者共に音を楽しんでいただきます。

主催 琴城流大正琴なな華

連絡先 細川一絵 ☎0767(84)1785

友の会美術講座「日本画体験～干支を描く」PART2

初めてでも大丈夫!!

古くから日本に伝わる伝統的な日本画は、鉱物を砕いた岩絵具を、動物のゼラチン質から成るにかわ膠で溶いて描きます。普段、鑑賞する機会はあるても、画材や技法について詳しく知る機会意外と少なのではないのでしょうか。

今回は、昨年に続き金沢市在住の日本画家・土農力（旧雅号・中町力）氏を講師に迎え、岩絵具や墨、胡粉という貝殻から作った白色や、金箔から作った金泥も使用し、色紙に来年の干支・「子」ねずみの玩具を描きます。オリジナル色紙で、新年を飾りませんか♪

なお、昼食後には、開催中の「冬の優品おもてなし」に展示中の、土農氏の作品などを解説付きで鑑賞します。

参加者大募集



「干支色紙」土農力氏作

日時…12月15日（日） 10：00～17：00

※昼休憩は約1時間の予定。

場所…石川県七尾美術館 会議室

講師…土農力氏（日本画家、日展会員、金沢学院大学教授）

定員…15名（定員に達し次第締め切り）

対象…友の会会員とその家族（小学生以上）

※同伴者は1名まで。

参加費…1,500円（材料費含む）

※高校生以上の方は、別途展覧会観覧券が必要。

持ち物…参加費、HBの鉛筆、消しゴム、昼食、飲み物、汚れてもよいタオル2枚。

募集…10月5日（土）9：00より電話にて受付。

石川県七尾美術館 ☎0767-53-1500

してやったり 第6回!

それは今年もやってくる。10月5日(土)、「山の寺の日」。

平成26年より毎年開催されている、秋の祭典「山の寺の日」。今回で早くも6回目を迎え、もはや「恒例」といえるこの夢の日が、満を持して今年も登場!

宴の舞台は美術館のほど近く、小島町地域の法華谷に所在する「山の寺寺院群」。異なる宗派の寺院16箇寺が合力し、にぎにぎしく繰りひろげられる「年1度・当日オンリー」のビックイベントです。

その目玉はなんといっても「寺宝公開」でしょう。「山の寺寺院群」の歴史は今から約400年前、安土桃山時代まで遡ります。当時の能登国主は「加賀百万石の祖」として著名な前田利家で、彼が七尾の城下町を再整備した際、周辺に点在していた寺院を現地に集結させたのが興りと伝わります。

従って、それらの寺院はいずれも歴史と由緒を有した名刹揃いであり、それぞれに貴重な歴史史料や美術工芸品を所蔵しています。宗教や信仰にちなむ書跡・典籍・美術工芸品は無論のこと、かつて能登国を統治した能登畠山氏・加賀藩前田氏関連の史料や、往時の人びとの生活や文化を窺わせる史料類。そして長谷川等伯とその一門「長谷川派」ゆかりの絵画云々。どれをとってもすばらしい文化財ばかりです。

これらの寺宝は大切に保管され、普段は滅多にみることができません。しかし「山の寺の日」ばかりは別儀で、一斉に特別公開されるのです。これを「ゴージャス」といわずして、何をかいわんやでしょう。

さらに今年も「秋の三めぐり 仏像（宝物）・御朱印・寺学」をテーマに、各寺院では展覧会や講演会、出店や茶会などイベントも盛りだくさん。そして毎年実施される注目の「特別講演」は、木越祐馨先生による講演「古の都を支えた能登のなまこ」です（午後1時より徳翁寺にて）。

毎年参加されている方も初めてという方も、必ずや知的好奇心を十二分に満たしてくれることでしょう。当日はぜひとも七尾を代表する歴史スポット「山の寺寺院群」で「黄金のひとつとき」を!



「達磨図」長谷川信春（等伯）
七尾市・龍門寺蔵

開催日時：10月5日（土）の午前9時から午後4時まで

※当日は当館から寺院群を巡るのに便利な無料のシャトルバスも運行されます。

※詳細は七尾山の寺振興会（長壽寺内☎0767-52-1247）までお問い合わせください。

※（公財）七尾美術財団協力。



これからの展覧会予定



令和2年2月22日(土)～4月19日(日)

◆第1展示室 「新収藏品展」

平成27年度から平成30年度にかけて七尾市の所蔵となり当館に収蔵された作品は、購入2点、寄附19点の計21点です。内訳は日本画11点、洋画6点、彫刻1点、工芸3点。本展ではその中から未公開作品を中心に、石川県ゆかりの作家作品を主に、日本画、洋画、彫刻、工芸の16点で紹介予定です。



「バルセロナのヨットハーバー」
戸潤幸夫



「はな」浜出青松

◆第2展示室 「ノスタルジア」

作品には作者の思いや制作された時が閉じ込められているものがあります。皆さんも鑑賞することでノスタルジア（郷愁）を感じることもあるでしょう。本展では、故郷や家族の姿、生活の記憶、時代を象徴するモチーフなど、ノスタルジックな作品を選び、日本画、洋画、彫刻、工芸、書の24点でご覧いただきます。



「沈金彫水引草飾箱『古城尔』」山岸一男

共通パスポートについて

七尾市所蔵の美術品や文化・歴史を堪能できる共通パスポートをご存じですか？
観光でのご利用には2日間（発行日とその翌日）共通パスポートを、また何度も展覧会をご利用になりたい方には年間共通パスポートがおすすめです。市内7つの文化施設でお得にご利用いただける共通パスポートを、ぜひ当館で買い求めください。



2日間共通パスポート
一般 1,000円 大学生以下 800円



年間共通パスポート
一般 2,600円 大学生以下 1,300円

令和元年度 市民ギャラリー&アートホールの利用について

当館では個展、グループ展、演奏会など幅広い芸術活動の発表の場として市民ギャラリーとアートホールの貸室を行っています。当館主催事業等で利用できない期間もありますので、お問い合わせください。【利用可能期間は当館ホームページでも確認できます】

また、令和2年度のご利用につきましては、1月4日(土)～1月28日(火)を第1次募集受付期間といたします。ご希望日等が重複する場合、受付期間終了後に調整させていただきます。

【お問い合わせ・お申し込み先】

石川県七尾美術館 貸館係
0767(53)1500

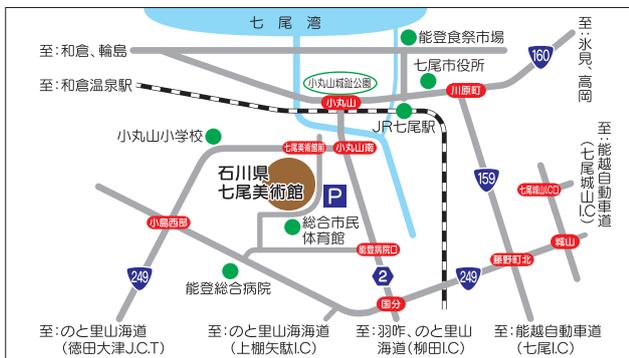


割引、プレゼントなど特典いろいろ！ぜひ当館でもご利用ください。

無線でネット



エントランスホール及びティールームにて、Wi-Fiスポットサービスの「FREESPOT」をご利用頂けます。



飛行機……のと里山空港から「のと里山海道」利用約45分
車……「のと里山海道」徳田大津J.C.Tから約15分又は「能越自動車道」七尾城山I.C又は七尾I.Cから約10分
タクシー……JR七尾駅から約5分
徒歩……JR七尾駅から約20分
市内循環バス「まりん号」
……JR七尾駅前「ミナ・クル」バス停から「七尾美術館前」下車(順回り約8分・逆回り約14分、1日各8便)
なおコミュニティバス「ぐるっと7」
……JR七尾駅前5番乗り場から「小丸山台1丁目」下車(西コース約10分、1日4便)

◎次号・第100号(冬号)は1月1日発行予定です。

日	月	火	水	木	金	土	2019
6	7	8	9	10	11	12	10
13	14	15	16	17	18	19	October
20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31			
日	月	火	水	木	金	土	2019
3	4	5	6	7	8	9	11
10	11	12	13	14	15	16	11
17	18	19	20	21	22	23	November
24	25	26	27	28	29	30	
日	月	火	水	木	金	土	2019
8	9	10	11	12	13	14	12
15	16	17	18	19	20	21	12
22	23	24	25	26	27	28	December
29	30	31					

◆10月～12月カレンダー◆
◆開館時間◆ 午前9時～午後5時 ※は休館日
(入館は午後4時30分まで)